

令和3年度 第5回掛川市総合計画審議会 議事概要

日 時	令和3年7月29日(木) 10:00~12:00
会 場	掛川市役所5階 全員協議会室

■出席者（敬称略）

No	氏 名	所属・役職等	出席 状況
1	日詰 一幸	国立大学法人 静岡大学 学長	出席
2	星之内 進	NPO 法人おひさまとまちづくり 理事長	出席
3	小川 雅子	公益社団法人 大日本報徳社 主事	出席
4	金嶋 千明	静岡県危機管理部参事兼地震防災センター 所長	出席
5	鎌塚 優子	国立大学法人 静岡大学 教授	出席
6	幸田 拓也	日本電気株式会社 PS ネットワーク事業推進本部 国内スマートシティグループ	出席
7	齊藤 奈津子	島田掛川信用金庫 地方創生室 副室長	出席
8	須藤 みやび	一般財団法人 静岡経済研究所 主任研究員	出席
9	垂門 涼子	ソフトバンク株式会社 東海 IoT エンジニアリング本部 東海 IoT 技術部 部長	出席
10	長濱 裕作	NPO法人 かけがわランド・バンク コミュニティマネージャー	出席
11	中村 陽子	人・農地プラン 委員	出席
12	増山 達也	有限責任監査法人トーマツ ディレクター	欠席
13	宮地 紘樹	医療法人社団 綾和会 掛川東病院 院長	出席
14	村上 文洋	株式会社 三菱総合研究所 主席研究員	出席
15	守屋 輝年雄	掛川市地区まちづくり協議会連合会 会長	出席
16	山本 たつ子	社会福祉法人 天竜厚生会 理事長	出席
17	山本 美鈴	株式会社 山本製作所 専務取締役	出席

発言者	発言内容
1 開 会	
2 会長あいさつ	
会長	<p>この審議会の会長を務めさせていただいております日詰です。</p> <p>今朝は、掛川市内の降水量が多いと聞き大変心配しておりました。河川の水位が上がったとのことで、先日の熱海の土石流のことが頭によぎりました。最近は気候変動のこともあり、こうした状況がよく起こりますので、改めて安心安全なまちづくりがとても大事だと痛切に考え、この審議会が無事に開催されることをとてもうれしく思っております。</p> <p>久保田市長が就任されてから初めての審議会であり、久保田市長の施政方針のもとに、新しい総合計画を作っていくということです。掛川の未来に向けて一步を記していく重要な機会だと思っております。今日は久保田市長のお考えもお伺いできるということで、楽しみにしております。</p> <p>私どものミッションとしましては、特に昨年のコロナを踏まえた上で、新しいまちづくりを進めていかなければなりませんので、改めて社会の変化を見つめて、新しい掛川市を先導していくビジョンを作っていければと思っております。</p> <p>今回は、17人の各界の専門家にお集まりいただいておりますので、忌憚のないご意見をいただきながら充実した審議会を進めていきたいと思っております。</p> <p>私は静岡市に在住しておりますので、なかなか見えないところもあり、そういったところは力添えをいただきながら、光り輝く計画を作っていければと思っております。</p> <p>何卒よろしく願いいたします。</p>
2 市長あいさつ	
市長	<p>掛川市の総合計画審議会は第5回になります。</p> <p>ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>今回も日詰先生にご参加いただき、ご挨拶をいただきありがとうございます。</p> <p>今朝の大雨が嘘のような青空になりましたが、警報が午前2時に一度解除され、4時に再発令しましたが、幸い水位が下がりました。こういうシーズンに入りましたので、引き続き気をつけていきたいと思えます。防災に関しては今回、県の防災の管理監にご加入いただきました。今回の審議会のメンバーは、継続の方が多くいらっしゃいますが、新たに4名の方に入ってください、大変うれしく思っております。</p> <p>総合計画については、掛川市は毎年改定していると思われるかもしれませんが、総合計画は私が副市長の時から関わっており、令和元年度は改定の時期でしたので行いましたが、そのあとコロナになり大きく社会が変わったということもあり、昨年度は改定の翌年でしたが、「ポストコロナ編」としてコロナ後の社会を見据えたような改定をしていくという目的で改定作業に入りました。</p> <p>2年連続で総合計画を改定するのは珍しいのですが、それだけ世の中が激変しているということです。</p> <p>昨年度は、構想の柱を6本から7本にするなどの議論をいただきました。</p> <p>私もこの4月に松井市長の跡を継ぎ、選挙期間中を通じていろいろなことを訴えてきたということもありますので、そういったことも総合計画の中に盛り込んでいきたいと思っており、基本構想も見直しをしていきたいと考えております。</p> <p>改定に改定を重ねておりますが、皆様のお力添えをいただき、引き続きよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>今回は、令和3年度の初めての会議となり、新しく委員を委嘱させていただく方が4名いらっしゃいますので、ご紹介をさせていただきます。</p> <p>それでは、今後の議事につきましては、日詰会長にお願いいたします。</p>

発言者	発言内容
会長	<p>会長の日誌でございます。本日は5回目の審議会となります。</p> <p>昨年から引き続きの委員の皆様、また今年度から新しくご参加いただく皆様、活発なご意見をいただけますようよろしくお願いいたします。</p>
議事（1）第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】令和2年度の改定について	
会長	<p>それでは、さっそく議事に入ります。</p> <p>先ず、議事（1）「第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】令和2年度の改定について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	資料1-1 説明
会長	<p>ただ今、昨年度の改定の経過につきまして説明をしましたが、ご質問がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>戦略目標と、戦略の7つの柱の関係が分かりにくいです。7つの柱のうちの重点目標が戦略目標と考えればいいのか、その辺を教えてください。</p> <p>また、資料2-5のピラミッドでは、戦略の柱が一番上になっているが、戦略目標はどこにあるのかが分かりにくいと思います。</p>
会長	<p>戦略目標と個々の戦略の関係がよく見えないというご意見ではありますが、そのあたりどうでしょうか。</p>
市長	<p>今回、戦略目標の「3つの日本一」を外し、その代わりに、戦略に向かう基本姿勢を入れていこうと考えています。</p> <p>「3つの日本一」をこれから目指さないというわけではありませんが、将来像についても少し変更を加え、将来像を目指すに当たっての基本姿勢を示し、戦略の7本の柱につなげていきたいと思っております。</p>
委員	<p>7ページの戦略について、教育・文化分野、健康・福祉分野で最近かなり気になっているのが、デジタル化が急速に進んでいる中で、情報倫理の問題が置き去りにされていると思っております。それは非常に重要な問題であり、さらにデジタル化による健康被害もかなり心配されております。データとしては明らかになっていませんが、もの凄いスピードのデジタル化による情報倫理の問題と健康被害については、大きく取り上げている行政がないので、ぜひ掛川市としては、そこを並行してサポートしながら推進していくことを強く押し出していくことが重要ではないかと思っております。</p> <p>情報倫理の問題や健康被害については、人権問題にかかわることなので、そういったことも前面に出していくことも必要ではないかと思いました。</p> <p>戦略（1）⑤「デジタル技術と本物の体験による学びの機会の充実」を、きちっと並列して入れてあることが非常に重要なことだと思っておりますし、こういうことを忘れてはいけないということと、情報倫理と健康被害に関するサポートをどこかにきちっと明記したほうがよいと思っております。</p>
企画政策部長	<p>掛川市の基本構想の中では、デジタル化をコロナ禍において推進していくという方針を打ち出しております。ご指摘いただいた部分については、基本構想の中に十分書ききれないところがあると思います。ごもっともなご指摘だと思いますので、今後基本計画を策定する中で、情報倫理や健康被害の関係もご意見を伺いながら策定の中に盛り込んでいきたいと思っております。</p>
委員	<p>私からは3点あり、1つ目は、「目標人口」のことで、目標人口を設定することはいいことだと思いますが、総合計画ではなく個別の計画でもいいのですが、目標人口を達成するための具体的な方策を必ず検討していただきたいと思っております。例えば、出生率は何年にはいくつにするか、外国人労働者は何人に増やすのか、社会増は何人を目指しそのための方策は何なのか、という具体策がないと、今だと11万6千人になるといいな、という</p>

発言者	発言内容
	<p>だけの話になってしまうので、裏付けをきちんとしておく必要があると思います。</p> <p>2つ目は、プランBとして、11万6千人の目標となっているが、必ずしも目標どおりにいかないかもしれず、人口問題研究所の推計のデータのように2040年に10万人を切るといったこともありうるわけです。そうなった場合の影響を、きちんとシミュレーションしておく必要があると思います。例えば、財政面でどういった影響があるのか、児童の数はどうなるのか、それに対応する学校や保育施設はどうすればいいのか、あるいはインフラの維持はどうするのか、人口が10万人を切ったケースも仮定して検討しておかないと、いざ人口が増えなかった時に慌てて検討しても間に合わないので、プランBを検討しておく必要があると思います。</p> <p>3つ目は、ポストコロナ編ということですので、コロナによって顕在化したさまざまな行政課題を総括して、次に同じようなことが起こった場合の対応策を検討しておくべきだと思います。例えば、予防施策で効果があったものなかったもの、あるいは支援策、例えば給付金の支払いにおいてもっと効率的にできないか、ワクチン接種の問題など、いろいろなことが今回明らかになりました。それをきちんと整理して次に同じようなことが起きた場合、同様の課題が起きないように方策を練っておく必要があると思います。</p> <p>この3つは、総合計画に入れるというよりは、個別計画で検討という形でよいと思うので、ぜひご検討いただきたいと思います。</p>
企画政策部長	<p>出生率や社会移動等の裏付けの問題につきましては、今年度、人口目標を精査していきたいと考えております。また、審議会の皆様のご意見を伺いながら、具体的な方策も併せて基本計画の中に示していきたいと考えております。2040年に10万人を切ったケースはどうするのかということにつきましては、まだ具体的に検討の俎上に上がっておりませんが、仮にそうなった場合のシミュレーションができるか、可能かどうか検討したいと思います。基本計画の中で示すことが難しいかもしれませんが、個別の計画で、示していくことができると考えております。</p> <p>コロナ禍の行政課題を評価としてまとめるということですが、おっしゃるとおり、次に何か起こった時のための備えの計画、個別の計画の実施プランを作っておくことはとても重要なことだと思っております。それについても、庁内で計画の作り方について検討していきたいと思っております。</p>
委員	<p>資料1-2の9ページ(6)⑤の本文「デジタル技術により」はこの文章にかかっているのかによって、意味が大きく変わってくるかと思えます。あくまでもデジタル技術はツールですし、その技術自体が結果を招くというよりは、それを使って何をすることが非常に重要になってきますので、情報共有とか的確に情報を掴めるといった意味ではいいと思いますが、市民一人ひとりの防災意識であるとか自助共助の活動を活性化させるというのは、デジタル技術だけでは無理だと思います。例えば(7)①では「デジタル技術を有効に活用して」となっていますので、そういった形に直すか、もしくはこの「デジタル技術」がその後の「防災や防犯等生活に必要な情報を誰でも迅速・的確に共有でき」にかかるのか、この文面だけでは解釈が2つに分かれる可能性があったのでご指摘させていただきました。</p>
企画政策部長	<p>今のご質問につきましては、「デジタル技術により」は、次のフレーズ「防災や防犯等生活に必要な情報を誰でも迅速・的確に共有でき」にかかってくるといった意味合いで策定をしたつもりでございます。これにつきましても、デジタル技術により最終的に市民の生活に新しい価値を吹き込むようなDXの考え方を、こういうところで具現化できればと思っております。また、基本計画においても、そういった点についてご指導をいただければと思っております。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>私が市内に住んでいて、空き家が非常に多くて、空き家の有効活用が進んでいないのではないかと考えております。空き家を利用するといった視点が、総合計画の中に入っていただければいいと考えております。</p> <p>今、私は、福祉作業所の方にお手伝いに来ていただいて、農業を経験してもらいながら「農福連携」を行っております。この計画の中には「農福連携」という言葉は入っていませんが、誰も取り残さない、誰もが健やかに安心できる、みんなが幸せに暮らせるまちの実現を考えると、どこかに「農福連携」という言葉が入っていてもいいかと思っております。</p>
部長	<p>「農福連携」については、基本計画の中でそういった考え方を明らかにしていきたいと考えております。また、今後も、皆様からそういったご提案いただきながら進めていきたいと考えております。</p>
<p>議題（２）第２次掛川市総合計画の改定に関する基本方針について          議題（３）掛川市のまちづくりビジョンについて</p>	
会長	<p>議事（２）「改定に関する基本方針について」、（３）「掛川市のまちづくりビジョン」について、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料２－１ 説明</p>
市長	<p>資料３に沿って、掛川市のまちづくりのビジョンについてお話をさせていただきます。総合計画は大きな体系になっており、基本構想と基本計画に分かれております。基本構想が上位にあたり、基本計画がそれにぶらさがっている形になっています。さらに７本の大きな柱を立ててありますが、その下に基本計画をぶらさげていく形になりますので、細かなもの、基本構想で表現しきれないものについては、基本計画で書いていくことができますので、その点もご留意いただければと思います。</p> <p>そして、基本構想を改正は議決事項となり、議会での議決が必要となります。昨年度、変更を加えた部分については、すでに今年の３月に議決をいただいております。</p> <p>今年もまた、基本構想の一部、今からお話する部分をさらに直していくことになりましたので、議会に諮っていくことになることをご理解いただければと思います。</p> <p>それでは資料３を説明させていただきます。</p> <p>掛川市の将来像ということで、「未来に向けてチャレンジできるまち掛川」を掲げさせていただきました。これは、私が選挙を通じて訴えてきたことであるのですが、これだけ世の中が大変大きく、コロナだけでなく変化をしているなかで、一地方都市である掛川市にとってもいろいろな物事を変えていくべきであるし、そういうチャンスでもあると思っております。これは、行政にとってもいろいろな分野、教育であれ、農業であれいろいろな分野で改革を進めていくことでありますし、また、市民一人ひとりにとっても、働き方の変化や仕事を変えること、生き方そのものが変わるような様々なチャレンジが、必要になってくるだろうと考えております。そういうことを、変化の激しい時代にあって、前向きにチャレンジできるまちであってほしいと考えております。</p> <p>新しいことにチャレンジする時、「お前それやめとけよ」という人が必ず出てきます。これは、当然の反応としてあるわけですが、ブレーキをかけるだけではなく、「自分も応援するからやってみようよ」というふうに、みんなで応援しあえるようなそんなまちにしていけたらと考えております。今言っているのは、メンタル部分だけではなく、様々なことに挑戦しようとする時には、決して心意気だけ、精神論だけでできるようなものではありません。内容によりけりですが、行政でもそういった制度を用意しないと、気持ちだけでは、ついていられない部分があります。そういう意味で、気持ちの面でも、あるいは制度的な部分でもチャレンジを後押しできる社会、そんな掛川市をつくっていかれたらと思います、この言葉を掲げてみました。</p>

発言者	発言内容
	<p>以前の将来像は「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」と書かれております。平成25年4月に掛川市が施行し、また日詰先生にも大変ご指導いただいた「自治基本条例」の中で、こういうまちを目指すということで条例上に書かれている内容を、これまではそのまま将来像として書いてきました。私は、条例に書かれている「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」を決して否定するものではなく、むしろ引き続き目指していきたいと思っておりますが、「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち」を実現していくために、そのマイルストーンとして、こういうチャレンジをしていくことによって、「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち」を長期的に目指していけるのではないかと考えております。</p> <p>ちなみに、掛川市というのは、平成19年に生涯学習都市宣言をしましたが、もともとは昭和54年に榛村純一市長が宣言をして、全国的にもかなり注目をされた時代でした。私は、生涯学習都市宣言は、今読んでも含蓄のある内容だと思いますし、生涯学習という言葉のとおり、年齢や性別にかかわらず、一生涯学び続けていこうと、最近は人生100年時代と言われるようになりましたが、それをまさに先取りして宣言をしてきました。これは、市民一人一人のことを言っているのです。行政だけがやるだけではなく、市民が一人でも多く幸せを実感し、健康で生きがいを持って生きるために一生涯学び続けていこうということを掲げています。ですから私は、この「チャレンジ」という言葉で、実は生涯学習都市宣言のエッセンスも取り入れ、生涯学びながら、そしてチャレンジしながら、今の時代の変化に応じてチャレンジしながら「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」を目指していきたい、そういう意味で表現させていただいております。</p> <p>次に、まちづくりの基本姿勢について説明いたします。以前の戦略目標は、教育・文化、健康・子育て、環境の3つの日本一を目指していこうということでした。これまでは、分野別に、3つの戦略目標を表現していました。しかし、続く戦略の7本の柱も分野別の記載が連続しており、必ずしもこの戦略目標を分野別に書かなくてもよいのではなかと思ひ、そのかわりに先ほどの「未来に向けてチャレンジできるまち掛川」していくための姿勢、アプローチ方法を書いてはどうかと思った次第です。具体的には、基本姿勢の1つ目が「対話志向」です。市民との対話を大切にしていこうということです。これは選挙を通じて訴えてきたことで、協働のまちづくりにも関係してきますが、本音の対話をしながらまちづくりを進めてきたいと思っております。2つ目は「柔軟思考」です。これだけ世の中が変わっていく時には、今までの考えだけではとても対応できません。柔軟に思いを巡らせ、考える。制度等も施行していくような柔軟な考えが必要だと考えております。3つ目は「未来試行」です。先を見据えて、まちづくりを進めチャレンジすることが重要だと思っております。令和元年度の改定の時には、「将来ビジョン検討会」を設置し、コロナ前でしたが、20年後、30年後の世の中はどうなっているのか、主にテクノロジーに注目し、自動運転やウェアラブル端末などいろいろな技術が出てくる、それによって世の中どう変わってくるのか、ということを見据えながら検討を進めた経緯があります。しかし、今後の世の中がどうなっていくのか、地方都市なのでそんなこと考えなくても国や県が何かするからそれを見ていればいいだろうと思わずに、地方都市だからこそこできることを積極的に考えていくことが、すなわち「対話志向」「柔軟思考」「未来試行」の「3つのしこう」であり、それらをまとめました。そんなアプローチ方法、基本姿勢をここで表現をしたいと思っております。</p> <p>資料3の裏面は、7本の柱を概略的に書いたものです。この将来像、「3つのしこう」を基に、具体的には、7つ分野の各戦略を詰めていくといったような構成で、今回の基本構想を考えていきたいと思っております。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>資料2-5で、一番上に戦略の柱があるのは違和感があります。将来像やビジョンがあってその下に戦略の柱があるのではないのでしょうか。</p> <p>市長がおっしゃった「未来に向けてチャレンジできるまち掛川」はマイルストーンということで、将来像は変えないで、マイルストーンの部分を変えるといことよろしいでしょうか。</p>
企画政策部長	<p>資料2-5につきまして、「行政評価システム」に特化した資料のため、一番上に「戦略の柱」がくるような表現になっております。</p> <p>実際は、将来像やビジョンが一番上にあり、その下に戦略の柱がくるようになっております。</p>
委員	<p>市長の掲げる将来像「未来に向けてチャレンジできるまち掛川」を伺いました。今、就労人口の4割は非正規という世の中で、若い人たちにはとてもひどい状況だと思います。そのような中で、私自身は3つの仕事を持っています。ひと昔であれば、3つも仕事をしなければ生活できないのかという話に絶対なつたと思いますが、たぶんこれからは、いくつもの名刺を持って、いくつものプロフェッショナルになるような世の中にきっとなると思います。そのような中で、未来に向けてチャレンジできる、もちろんメンタル面は自分自身がやっていかなければならないと思いますが、それをまちとして、いろんな制度として後押ししていただけるのは非常に心強く、そのような若い人たちに向けての制度づくりができれば、とても住みたくなるまちになるのではないかと思います。</p>
市長	<p>特に若い方が希望をもって、チャレンジしてみたい、そう思えるようなまちにしていきたいと考えています。ここでいうチャレンジは、みんながみんな起業しなさいということではなく、そういう大きなものだけではなく、身近なチャレンジも含まれます。例えば「掛川で子育てしていきたい」ということも1つのチャレンジであると思います。若い方だけではなく、全世代がチャレンジできるまちを目指しますが、特に若い方がチャレンジすることは、前向きな社会につながるのではないかと考えております。</p>
委員	<p>掛川市のまちづくりビジョンについてコメントさせていただきます。「3つのしこう」はとてもよいと思います。3つともどれも大切なことです。その上で、資料3の裏面にある7つの戦略について、今後具体的に詳細を詰めていく必要があると思いますので、その際の検討の仕方についてコメントしたいと思います。1つ目は、全体に書いてある「誰ひとり取り残さない」ですが、これは目標として掲げていますが、この考え方として、デジタルサービスをみんなが使えるようにするという狭い意味でとらえている人が多いのですが、本来の意味は、誰もがその人の状況に応じて社会参加できる、そのためにデジタル技術をうまく活用するといった広い意味で捉える必要があると思います。2つ目は、産業の分野で、学生とか若い人、中壮年を含めて、男女かかわらず、スタートアップ、新しい企業を支援することを入れていったらどうかと思いました。神戸市をはじめ、いろいろなところでスタートアップ支援、新しい産業構造への転換が進んでいるので、そういった観点も入れるといいと思いました。教育・子育て・福祉分野においては、一人ひとりの状況、例えばおかれている子育ての状況に応じた学習や行政サービスを提供することが必要で、今は一人ひとりに応じたサービスができていませんが、デジタル技術を使えば可能になりますので、一人ひとりに合わせたサービスという観点があればいいと思いました。また、行財政分野に「市町連携」とありますが、「県」も入れるべきではないでしょうか。コロナ対策は、県と市との連携が重要です。また、周辺に限らず離れたところの市町との連携、場合によっては海外との連携も視野に入れていけばいいと思います。「スマホで行政手続き」とありますが、ここはぜひ、自前主義に陥らないでほしいと考えております。民間サービスでも有効なサービスがいろいろありますので、民間サービスをうまく組み</p>

発言者	発言内容
	<p>合わせて使うことがよいのではと思っております。さらに、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を活用した業務効率化とありますが、RPAに限らず、内部業務をデジタルで完結させるといった観点が必要だと思っております。それによってリモートワークが可能になり、職員の働き方改革や人材の獲得につながりますので、ここは内部業務のデジタル完結に向けて取り組みを進めることがいいのではと思っております。</p>
<p>企画政策部長</p>	<p>社会に参加できるデジタル化ということだと思っておりますので、整理をして取り組んでいこうと思っております。教育・子育て・福祉分野の一人ひとりに応じたサービス提供については、ハードルが高いところがございますが、そういった考え方をもって基本計画を作っていくと思っております。また、行財政分野において、市町連携だけでなく県の連携もとのことですが、近隣市町をはじめ海外との連携等につきましても、審議会の中でご意見をいただきたいと考えております。内部業務のデジタル完結につきましても、専門的な分野からご提案をいただけたらありがたいと思っております。</p> <p>今後、委員の皆様のご意見を計画の中に盛り込んでいけるように整えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>資料2-2の将来人口の目標について、昨年度の改定で、2025年は11万6千人へと1,000人増加させましたが、裏面の人口動態を見ると、自然動態と社会動態が両方とも下がっています。社会動態については533人減少となっております。コロナの影響だと思っておりますが、一般市民は、コロナで社会動態がこれだけ下がっているのに、なぜ2025年は増えるのかと思うのではないのでしょうか。2020年の国勢調査の速報値を踏まえてのことだと思っておりますが、なぜ昨年度、2025年の将来人口を11万6千人に増加させたのかを教えてください。また、社会動態の減少はコロナの影響等によるとのことでしたが、その要因とは主にどのようなことが考えられるのかも教えてください。掛川市のことは詳しく分かりませんが、県東部のまちでは、大手企業が工場を移転したために人口が大幅に減ったことがあります。そういう構造的な問題なのか、社会的なコロナの影響による一時的なものなのか、それによってこのあと総合計画を作り、7本の柱でいろいろと事業建てしていく中で、例えば企業の移転に伴う一時的なものであれば、企業に引き続き掛川にとどまっていたような施策の充実や新たにきていただけるようなことを考える必要があると思っております。逆にコロナを踏まえて、掛川へ移住、あるいは都心部と掛川と交互に交流してみんなで住んでもらうようなことを考えると、今回新たに入れたシティプロモーションの柱ももっと充実し、施策にも反映してくるのではないかと考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>私から外郭的に人口のことをお話しさせていただきます。</p> <p>資料2-2の裏面をご覧ください。自然動態と社会動態のグラフを見ると、2020年はどちらも減少しております。ただ、社会動態は、令和2年は減少しておりますが、それまでの5年間はずっと増加してきております。実は、国勢調査の速報値ですと、国勢調査は5年ごとですので、2015年、それから2020年の速報値がこの間出まして、静岡県内35の市町がある中で、掛川市を含む4つの市町のみが、この5年間で人口が増加しております。掛川は増加した市町に入っているのです。増加したのは、掛川市、袋井市、菊川市、長泉町ですが、掛川市が増えたのは300人ですので、たいした増加ではありませんが、この社会動態のこの5年間の増加が効いています。自然動態を上回る増加があったから、この5年間で増えたということになっております。その増えた中身というのが、おおむね外国人、外国の方が製造業等に勤務する形で転入してきたことで増えていたということです。そこがコロナになって、製造業が一時的に落ち込んだので、継続的に入ってきていた新しい労働者が入ってこなくなったことや、帰国した方もいづらかいるかと思っておりますが、そういうことで令和2年度については、533人も減少しているといったことになっており</p>

発言者	発言内容
	<p>ます。</p> <p>今後、我々ももちろん明確に見通せているわけではないのですが、おおむね製造業については、回復をしていると思っております。もちろん業種にもよりますが、中にはコロナ前よりむしろ業績がよくなっているところもあると思っております。そういう意味では、令和2年の落ち込みがそのまま続くよりは、いくらか回復するだろうと思っております。今後の人口の目標を定めていく必要があります。ですから、ある種、掛川市の人口については、ものすごく悲観的ではないと思っておりますが、それでも基本的には減少トレンドにあるのは明らかであり、それを社会動態の増加で補っているという形であったわけです。それを踏まえて、2040年の目標人口12万人をそのままいいのかという話もあるわけですし、2025年の11万6千人も、これでいいのかということであろうと意識しているところであります。</p>
委員	<p>資料2-2の人口目標値について、それと掛川市のビジョンとのつながりで、例えば、掛川市の将来像・ビジョンを策定するために将来人口が決まるのでしょうか。将来像のために必要な人口なのか、このつながりがよく見えません。全国的に人口が減っている中で、掛川市の人口を保つ、あるいは緩やかな上昇を目指すということは、ほかの都市の人口がより減ってしまうところもあると思います。そういったところを踏まえた上で人口を保つことが、この掛川市のビジョンを策定するために必須であるということかを聞きたいと思っております。そして、他のまちの人口をもらってきたとしても、掛川市が誰もが住みたいまちでありうるのか、日本全体の人口が減っていく中で、普通に考えれば掛川市も減っていく、それでもここに住みたいというのはもう少しほかの在り方もあるのか、人口を保つこととビジョンを達成するというところの兼ね合いを知りたいと思っております。</p> <p>資料3裏面の7つの戦略の中で、健康分野について、先ほどもお話しがあったように、デジタル化の推進ということがかなりプッシュされていますが、デジタル化の推進はやはり手段であって、何をそれによって達成するかという表記が少ないと思っております。また、社会参加する機会が増えることでデータが集まるので、多様な個に合わせた医療の提供、介護の提供ができるといった、具体的に目指す項目が記載されると、よりよくなるのではないかと思います。</p>
会長	<p>人口の減少とDX化の推進でどのようなことを目指すのかということで、事務局の説明をお願いいたします。</p>
企画政策部長	<p>2025年の将来人口11万6千人につきましては、昨年度、基本構想を改定する中で、これまでの11万5千人という目標人口を1,000人増加させました。その背景としては、掛川市の人口が2019年まで、2015年に推計をした時よりもそれを上回る実績で人口が増加しており、減幅が少なかったということがありまして、昨年1,000人増やす改定を行いました。</p> <p>その中で、11万6千人を保つことがビジョン達成することに必要か、ということでございますが、市が行うことはまず、ビジョンの策定ということであり、人口の目標についてもそれを目指して行政的な施策がいろいろ出てくるということになるかと思っております。それについては、難しいお答えになりますけれども、両方を大切にしながらまちづくりを進めていくことが行政計画上必要なことだと思っております。</p> <p>昨年度から委員に、デジタル化の推進はあくまで手段であるというお話をいただいておりますが、まったくおっしゃるとおりであると思っております。</p> <p>何を達成するのかということが重要ですので、今年度掛川市では、DX推進計画を策定する予定でございます。そういった中で、きちんとデジタル化の目標や考え方を手入れして、審議会にも報告できればと思っております。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>掛川市は、人口は何人いればいいのでしょうか。また、この人数がいないと我々は幸せになれないのでしょうか。そのあたりがよくわかりません。</p>
市長	<p>そこは、端的に言えば、私の中では直接関係ありません。12万人いないと「希望が見えるまち、誰もが住みたくなるまち」にならないのか、チャレンジできるまちにならないのか、そんなことはありません。むしろ、チャレンジとか、ここでは質のことを言っているということでもありますので、数の上で市民がどれだけいないと、という意味ではありません。</p> <p>全体的な人口が減少している中で、掛川市は比較的傾向が緩くはありますが、それでも減少トレンドに入っています。2040年の目標人口12万人も、過去一番人口が多かった時の数字だと思いますが、維持で行くのか、それとも社人研では10万人の推計なので11万人位でいくのか、減少幅の少ないところを目指していくのか、そのあたりは私の中でも悩んでおり、どちらがいいのだからと思っております。</p> <p>先ほど、目標人口を達成できなかった場合はどのようになってしまうかというお話がありましたが、行政は総合計画以外にいろいろな計画を作っています。福祉の計画や待機児童に関する計画、保育施設の整備計画などいろいろな計画を作るのですが、人口については何をいうかという、一番悲観的なものを使用します。そうしないと、過大に投資することになってしまいますので、そういう意味では、ほとんどの計画は悲観的な数字で作っております。ところが総合計画は、がんばっていこうということでもありますので、そういう意味で、少し上のほうの数字をもってくる人が多いのです。</p>
委員	<p>外国籍の方について、戦略2の福祉分野には「高齢者、女性、障がい者、外国人等」と入っているのですが、その他の戦略に入っていないことが気になりました。福祉分野だけがそういう方が主要なのか、他はそうでもないのか少し気になりました。</p> <p>もう1点、市長から、掛川市のまちづくりについて「未来に向けてチャレンジできるまち掛川」というすばらしいお話をお聞きしました。その中で、行政が後押ししてチャレンジして、今後ずっと継続してチャレンジできるまちづくり、というのがあったかと思いますが、やはりチャレンジできる環境、もちろんそういったものはなかなか一歩踏み出すことは難しいことだと思います。経験のある程度積んできた中でといったところもあると思いますので、小さなころからある程度経験が積めるようなチャンスがあればいいかと思えます。行政、学校、企業の中でも、地域まちづくりといった、全体的にチャレンジできる環境を整えていくことで、様々な経験が積み重ねられて、様々なチャンス、様々な一歩が踏み出せる機会として、何かしらチャレンジできるようになるのではないかと思っております。</p>
市長	<p>おっしゃるとおりで、やはりチャレンジは小さいうちから何かに取り組んで、それがちょっとでもうまくいくと自信につながり、さらにチャレンジできるという好循環につながっていくのかなと思います。</p> <p>我々ができないことできないことはもちろんあります。高校生や中学生など若い世代にもまちづくりにもかかわってもらいたいと思っております。2年前の総合計画改定の時には、高校生にも関わってもらいました。また、今年度、地区集会在市内30か所で地区ごとに行われますが、その時に、例えば高校生にも何人か来てもらいたいと考えております。</p> <p>我々としても、そういう環境整備に努めていきたいと思っております。</p>
委員	<p>私の職場でも、これまで対面での対応を大切にしてきましたが、コロナ禍において突然できなくなる状況になってしまい、急速に対応が進んでおります。</p> <p>行政もデジタル化が進み、企業もデジタル化が進んでいく中で、やはり取り残される人</p>

発言者	発言内容
	<p>が出てしまうのではないかとすごく不安に感じております。実際、今の状況でも高齢者の方で機器をうまく使えない方もいる中で、全部デジタル化となったら本当に大丈夫かと感じております。行政サービスや企業サービスが受けられない方がいることのないように、一体となって誰ひとり取り残さない形にしてほしいと思っております。</p>
会長	<p>そのあたりは、十分にご配慮いただく形にさせていただきたいと思っております。</p>
委員	<p>私も人口について少し調べてみましたが、先ほど市長がおっしゃったとおり、掛川市は2020年、外国人が入ってこなかったということで減少しましたが、それまでの増加というのは、世代別にみると、特に10代・20代の若い日本人が進学や就職で流出している一方で、若い外国人の方が転入し転出を補い増加しているという事態があると思っております。県内のほかの市町も見てみたところ、ほかの市町でも同様のことが起こっておりまして、全部の市町ではないが、製造業が集積している市町ですと減少幅が小さくなっていたり、社会増になっていたりが見られました。やはり外国人の方が転入してくれてきているというのが大きな要因になっているので、その方たちにどう関わってもらおうかというのが、大事な戦力としてこれから行政が考えていく上で、重要な要素になってくると思っております。</p> <p>1つ気になるのは、若い外国人の方、10代・20代ですので、技能実習生なのではないかと思われまます。技能実習生の方は、せっかく日本に来て、日本語も日本の技術も習得しても5年で帰られてしまうので、法律的にはいったん帰らなければいけないのですが、仮に技能実習生が多い場合というのは、その方たちを例えば定着してもらうような何か取り組みを考えたほうがいいのか、今後行政のほうで見ていく点ではないかと思っております。</p> <p>日本人の若い世代10代・20代の転出は相変わらず進んでしまっています。そこを呼び戻していくというのが、県内の全市町の共通している課題だと思っております。</p> <p>減少や増加の中身を見ていくと特徴があり、市は1番データを持っていると思っておりますので、そこをぜひ細かく見て、実際具体的な施策のほうに落とし込んでいただけたらと思っております。</p>
企画政策部長	<p>国勢調査の速報値では、平成27年から令和2年、5年後に掛川市は387人増加をしております。これにつきましては、市長が申し上げましたとおり、4つの自治体だけが増加しており、この要因は外国人の増加が大きな要因です。</p> <p>技能実習生につきましては、実習生が掛川に定着していただける方策がまだ見つかっておりませんが、総合計画を策定する中でどのようなことが可能になるのか、皆様にご意見をいただきながら検討したいと思っております。</p> <p>10代・20代の若い世代の転出については、当然平成27年から国が進めております地方創世の関係の主たるテーマでございますので、これについても若い世にいかにか掛川に定着していただくか、あるいは東京の一極集中を是正していくのか、今、移住定住の関係も進め、シティプロモーションにも力を入れておりますので、基本計画を策定する中で具体的なプランについてご意見をいただければと思っております。</p>
委員	<p>人口のことについて私が気になっているのは、これからの人口、全員が働く力になるかということところがすごく大きな問題になっていると思っております。なぜならば、全国の引きこもりの人数が、手元に正確なデータがあるわけではないのですが、60万人から100万人いると言われており、そのうちの40%が義務教育時代からの不登校の子供であるといったデータもございます。今、子どもたちの問題、これから掛川市を作る、また社会を作る子どもに生きて働く力があるかどうかということ、そこは非常に問題になっております。もう少しそういったところも細かく分析しつつ、デジタル化だけでなく、アナログでの人のパ</p>

発言者	発言内容
	<p>ワー、マンパワーがすごく必要になってくると思います。子育ての背景として、いろいろな家庭的な背景があり、家庭の支援をどうこうなっていくかということを実際に真剣に考えていかないと、人口の減少の問題だけではなく、生きて働く力につながるかどうかというのは非常に問題が大きいところであると思っております。教育にもマンパワーをたくさん投入していただかないと、次の社会、掛川市を支える子供たちがどうあってほしいかということも重要なことではないかなと思います。</p> <p>先ほどもお話にもありましたが、デジタル化というのは、本当に手段であって、どちらかという貧困家庭の子どもや虐待を受けている子ども、ヤングケアラーの子どもなど、そういった子どもにデジタル化は届いていないのです。また、高齢者の問題もありましたが、本当に届けたい人のところに情報が届かないところに問題があると思っておりますので、そういったところもていねいに評価して、施策を考えていく必要があると思っております。特にそういった子どもたちや高齢者の方たちは、逃れたくても逃れられない生活環境の中にいるということをお忘れはならないですし、一番届けたいところにどのように手厚くしていくかということも、非常に問題になっていることだと思っております。</p> <p>そういった点でもきちっと評価していただいて、施策に反映させていただけるとありがたいと思っております。</p>
市長	<p>引きこもりのことにも言及いただきましたが、私も10年位前に内閣府にいた時に、ニートと引きこもりの問題に関わっていました。おっしゃるとおり、たぶん日本全体で100万人ぐらいいるのではないのでしょうか。しかも、かなり高齢化しており、以前は20代・30代ぐらいでしたが、今ではそうではないと思います。掛川市でも調査していますが、正確な人数自体はよくわかりません。日本全体の比率でいけば、1,000人位いるだろうと思います。ですから、そういった方も含めて、おっしゃるとおり年齢的には上の年齢まで働き続けることができる社会、まずそれを選択する方が増えてくるのですが、その年齢に達していなくても様々な事情で働けないとか、ヤングケアラーの問題もありますが、介護でなかなかこれまでどおりの働き方ができないという方もこれから出てくると思います。本当に多様な方々が出てくるなかで、我々はきめ細かい対応が求められます。</p> <p>委員がおっしゃるような、本当に情報が必要な方にどのように届けるかというのは、今コロナのワクチン問題でもそうですが、本当に大きな課題だと思っております。これは外国人も含まれますが、そういう方々にどうやって情報を伝えていくか、広報のような役割も令和の時代ものすごく大事になってくるだろうと思っております。その辺についても今後教えていただきたいと思っております。</p>
委員	<p>人口問題、福祉問題について、皆さんにご指摘いただいてありがたいと思いましたが、特に私たちが非常に危惧しているのは、介護分野、2040年に向けて静岡県内でも6万人ぐらいが足りなくなるだろうと言われております。それから保育分野も、都市部では需要が多いですが、過疎だと事業が継続できないような状態になり、地域差が極端に出てきているというのが現状です。</p> <p>掛川市内にあっても、中心部は非常に充実していると思いますが、山間部などは情報も届かないし、福祉サービスも十分に受けることができないでいる方たちがいらっしゃるに聞いております。そういった人々をどうやってサポートするか、支援していくのかは、市民と行政と一体となって、企業もがんばってきたいと思っておりますので、ぜひ、この計画の中でも議論いただくとありがたいと思っております。</p> <p>それからもう1点、掛川市のまちづくりビジョン、市長が掲げた「未来に向けてチャレンジできるまち掛川」を読んでいて、とてもわかりやすくいいなと思いました。</p> <p>また、子供たちの「地元愛」を育てたいと思っております。地元が、自分たちが住んで</p>

発言者	発言内容
	<p>いる地元はいいところだということを、小さいうちから教え込んでいくこと、それが大きくなった時に地元で自分の力を発揮したいという子供たちが育つのではないかと、そんなことを感じましたので、そういったこともぜひご検討いただければと思います。</p>
委員	<p>市長のビジョンに賛成なのですが、当然掛川市のビジョンですから、市民を対象にしたビジョンが中心になるというのは重々承知しています。</p> <p>一方で、例えば環境問題を挙げてみれば、ゴミの6割ぐらいは産業界から出ています。さらに多くの市民が企業で働いている、そういう環境の中で、産業界と地元、既存の産業も含めて、既存の産業界と基本計画がどうかかわっていくのか、産業界から見たときにどんなまちづくりにするか、産業界はどうなっていくのだろうか、そういった視点、産業界というキーワードがあまり目立たない、見えていないと思います。やはり基本的には地域住民ですが、その辺をどのように構想だとか基本計画の段階で考えるのか、あるいは個別政策で考えていくのか、今後も議論の中で考えていければと思っております。</p>
市長	<p>7つの柱のなかに、産業・経済分野の柱があります。そういったところを中心にもう少しそういう色が出るような表現の仕方を考えていきたいと思っております。</p>
委員	<p>まちづくりの基本姿勢、「3つのしこう」はとてもすばらしいと思っております。特にこの「対話志向」というのは、これからステークホルダー、関係者が一緒にまちづくりをやっていくうえでは、重要なポイントだなと感じております。</p> <p>一方で、戦略の7の柱、「協働と連携により誰もが支えあい役立ちあうまち」の具体的なアクションのところについては、例えば情報共有というのは、対話の第一歩目だと思っておりますが、どちらかという片方向なのかなという感じを受けております。そのため、取り組みとしては、情報共有であるとか、申請を手のひらでできるとか、片方のベクトルなのかもしれませんが、双方向でやり取りができるような取り組みを今後検討いただけるのがよいのではと思っております。</p> <p>自治体DX計画もこれから検討されるということでしたが、ぜひともデジタルツールの導入ということに限らず、双方で市民と行政とがお互いに意見を共有しあえるかどうかということも含めて、検討いただきたいと思いました。</p>
会長	<p>それをご検討いただくということで、ご承知おきいただければと思います。</p> <p>皆様、ありがとうございます。本日は限られた時間となりましたので、皆様から他にもご意見・ご提案等ございましたら、ぜひ事務局へお知らせください。</p> <p>以上をもちまして、本日の議事は終了といたします。</p>
市長	<p>本日は、本年度最初の審議会となりましたが、たくさんのご意見を賜り、誠にありがとうございました。</p> <p>この総合計画というのは、様々なところに配慮しないといけないものでありまして、それだけに多様な意見もあったわけですが、このように皆さんにご意見をいただいて揉んでもらうことが、この計画がよくなっていくことだと思いますので、今日ご発言いただいていない方もいらっしゃると思いますが、何かありましたらメールでも構いませんし、また次回以降ご意見をいただけたらと思っております。</p> <p>長時間にわたり、ありがとうございました。</p>